

様式第 1 号

令和 7 年 5 月 26 日

文部科学大臣
あべ 俊子 殿

〔設置者の名称〕 学校法人中内学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 中内 潤

大学等における修学の支援に関する法律第 3 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	流通科学大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・専門学校)
大学等の所在地	兵庫県神戸市西区学園西町 3 丁目 1 番
学長又は校長の氏名	清水 信年
設置者の名称	学校法人 中内学園
設置者の主たる事務所の所在地	兵庫県神戸市西区学園西町 3 丁目 1 番
設置者の代表者の氏名	中内 潤
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.umds.ac.jp/

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

- 確認申請
大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。
- 更新確認申請書の提出
大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

- この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。
- 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知していません。
- 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	学生課・横山靖弘	078-794-3552	Yasuhiro_Yokoyama@red.umds.ac.jp
第2号の1	教務課・早崎尚宏	078-794-3557	Naohiro_Hayasaki@red.umds.ac.jp
第2号の2	理事長室・前田匡講	078-794-3555	Masamichi_Maeda@red.umds.ac.jp
第2号の3	教務課・早崎尚宏	078-794-3557	Naohiro_Hayasaki@red.umds.ac.jp
第2号の4	学生課・横山靖弘	078-794-3552	Yasuhiro_Yokoyama@red.umds.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 () を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事(役員)名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料

確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	F128310108927	学校名	流通科学大学
設置者名	学校法人中内学園		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	4,606,516,111円	4,874,647,600円	-268,131,489円
申請2年度前の決算	4,678,606,488円	4,805,404,378円	-126,797,890円
申請3年度前の決算	4,841,219,167円	4,832,893,315円	8,325,852円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	14,172,432,623円	250,597,576円	13,921,835,047円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	3,600人	3,497人	97%
前年度	3,600人	3,626人	100%
前々年度	3,600人	3,730人	103%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合
申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業者数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況			#DIV/0!

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況			#DIV/0!

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	流通科学大学
設置者名	学校法人中内学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
商学部	経営学科	夜・通信	84	50	44	178	13		
	マーケティング学科	夜・通信			22	156	13		
経済学部	経済学科	夜・通信		34		18	136	13	
	経済情報学科	夜・通信			12	130	13		
人間社会学部	心理社会学科	夜・通信		24		34	142	13	
	観光学科	夜・通信			50	158	13		
	人間健康学科	夜・通信	44		152	13			
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学 HP にて公表 https://www.umds.ac.jp/academics/syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	流通科学大学
設置者名	学校法人中内学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ上に掲載 https://www.umds.ac.jp/about/organization/chart/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	<現職> 株式会社美十 代表取締役社長	2023年4月 1日～2027 年3月31日	企業等経営者の視点から学校法人の経営・運営へ意見する
非常勤	<現職> 特定非営利活動法人ジ ャパン・フィルムコミッ ション 顧問	2023年4月 1日～2027 年3月31日	企業等経営者の視点から学校法人の経営・運営へ意見する
非常勤	<現職> 一般社団法人全国スー パーマーケット協会 会長	2023年4月 1日～2027 年3月31日	企業等経営者の視点から学校法人の経営・運営へ意見する
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	流通科学大学
設置者名	学校法人中内学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>													
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>12月頃の教授会・教員会において、翌年度開講科目のシラバス作成にあたっての入力項目と必要事項、ならびに作成スケジュールについて告知を行う。非常勤講師については、別途科目担当の依頼と同時にシラバスの作成についても案内する。</p> <p>すべての学部において、同様に取り組んでいる。</p> <p><シラバス項目></p> <p>【主題と概要】、【到達目標】、【提出課題】、【課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック】、【評価の基準】、【履修にあたっての注意・助言他】、【教科書】、【参考図書】、【授業計画】、【授業形態(アクティブラーニング)】、【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】、【双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述】、【実務経験の有無及び活用】、【備考】、【その他】</p> <p><シラバス作成スケジュール></p> <table border="0"> <tr> <td>前年度2月初旬</td> <td>ポータルサイトにて教員入力開始(専任・非常勤)</td> </tr> <tr> <td>2月中旬</td> <td>教員入力締切(専任・非常勤)</td> </tr> <tr> <td>2月下旬</td> <td>第3者チェック(第1期)および教員シラバス修正</td> </tr> <tr> <td>3月上旬</td> <td>第3者チェック(第2期)</td> </tr> <tr> <td>3月中旬~当年度末</td> <td>ポータルサイトにてシラバス公開</td> </tr> <tr> <td>6月頃</td> <td>大学ホームページにて公開</td> </tr> </table>		前年度2月初旬	ポータルサイトにて教員入力開始(専任・非常勤)	2月中旬	教員入力締切(専任・非常勤)	2月下旬	第3者チェック(第1期)および教員シラバス修正	3月上旬	第3者チェック(第2期)	3月中旬~当年度末	ポータルサイトにてシラバス公開	6月頃	大学ホームページにて公開
前年度2月初旬	ポータルサイトにて教員入力開始(専任・非常勤)												
2月中旬	教員入力締切(専任・非常勤)												
2月下旬	第3者チェック(第1期)および教員シラバス修正												
3月上旬	第3者チェック(第2期)												
3月中旬~当年度末	ポータルサイトにてシラバス公開												
6月頃	大学ホームページにて公開												
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページにて公開(例年6月頃更新)</p> <p>https://www.umds.ac.jp/academics/syllabus/</p>												
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>													

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

すべての学部において、成績の評価は、各期末の定期試験、中間期の試験、授業中の提出物や授業への貢献度などを総合して行う。各科目の成績評価の基準については、シラバスに記載する。

成績の評価は、100点満点の60点以上を合格として、次の評価をもって表す。

評価	評価点	合否
④	90~100	合格
A	80~89	
B	70~79	
C	60~69	
D	59以下	不合格
—	放棄 (未受験やレポート未提出)	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

(1) 成績評価基準とグレード・ポイント (GP)

点数	評価	合否	GP
100-90	④	合格 (単位修得)	4
89-80	A		3
79-70	B		2
69-60	C		1
59-0	D	不合格	0
放棄	—		0
認定	認	認定(合格)	GPAの計算対象外

※認定：編入学・再入学・認定留学および資格取得における単位認定科目

(2) GPAの算出式

$$\text{GPA} = \frac{[4 \times \text{④の単位数} + 3 \times \text{Aの単位数} + 2 \times \text{Bの単位数} + 1 \times \text{Cの単位数}]}{[\text{成績評価を受けた科目の単位数}] \text{の合計}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページにて公開
<https://www.umds.ac.jp/supporter/learning/standard-acquisition-unit/gpa/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力と、各学部・学科所属の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力によって構成されています。</p> <p>本学は、「流通科学大学学則」に基づき、本学の各学部・学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、これらの資質・能力を身につけたものとみなし、学生の所属学科に応じた学士の学位を授与します。</p> <p>本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力は、以下の5項目です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材 (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材 (4) 自主・自立の精神を持った人材 (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>大学ホームページにて公開</p> <p>https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2021/</p> <p>https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2024/</p> <p>https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2025/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	流通科学大学
設置者名	学校法人中内学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学公式HP上の計算書類(PDF形式)のなかで公表。 https://www.umds.ac.jp/about/finance
収支計算書又は損益計算書	大学公式HP上の計算書類(PDF形式)のなかで公表。 https://www.umds.ac.jp/about/finance
財産目録	大学公式HP上の計算書類(PDF形式)のなかで公表。 https://www.umds.ac.jp/about/finance
事業報告書	大学公式HP上の計算書類(PDF形式)のなかで公表。 https://www.umds.ac.jp/about/finance
監事による監査報告(書)	大学公式HP上の計算書類(PDF形式)のなかで公表。 https://www.umds.ac.jp/about/finance

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2025年度事業計画 対象年度:2025年度)
公表方法:ホームページに掲載 https://www.umds.ac.jp/about/finance/finance-2025/?id=keikaku
中長期計画(名称:第一期中内学園中長期計画 N-PLAN(第6次計画) 対象年度:2025年~2029年)
公表方法: https://www.umds.ac.jp/about/business-summary/n-plan6/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.umds.ac.jp/about/evaluation/self-assessment-report

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページで公開 https://www.umds.ac.jp/about/evaluation/evaluation-juaa/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 商学部 経営学科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.umds.ac.jp/about/purpose/)
<p>(概要)</p> <p>(1) 流通(人、モノ、カネ、情報、サービスの流れ)を通して社会システムを理解し、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する。</p> <p>(2) 生活者のニーズを的確につかみ、社会の多様な文化や地域特性に配慮できる、現場に強い実践的な人材を育成する。</p> <p>(3) 問題を発見し、分析し、持続可能な解決策を構想できる能力を身につけた人材を育成する。</p> <p>(4) 知識や理論を発展させ、実践的な政策やスキルに変換できる人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2021/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2024/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2025/)</p> <p>(概要)</p> <p>本学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)は、本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力と、各学部・学科所属の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力によって構成されています。</p> <p>本学は、「流通科学大学学則」に基づき、本学の各学部・学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、これらの資質・能力を身につけたものとみなし、学生の所属学科に応じた学士の学位を授与します。</p> <p>本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力は、以下の5項目です。</p> <p>(1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材</p> <p>(2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材</p> <p>(3) 創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材</p> <p>(4) 自主・自立の精神を持った人材</p> <p>(5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2021/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2024/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2025/)</p> <p>(概要)</p> <p>I 全学に共通する教育課程の編成・実施方針</p> <p>本学では、授業科目を次の通り、区分して教育課程を編成します。</p> <p>全体を全学共通科目と学部専門科目とに区分し、加えて商学部マーケティング学科に教職課程科目を置きます。このうち、全学共通科目は、全学基幹科目、全学基礎科目、教養科目、キャリア科目、留学生科目によって編成され、学部専門科目は、学部共通科目、学科専門科目によって編成されます。卒業認定・学位授与を受けるためには、各科目区分に応じて最低必要単位を取得することが求められます。</p> <p>各科目区分の教育課程の編成方針は以下のとおりです。本学の学生が「流通科学大学</p>

の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に示された資質・能力を身につけることができるよう体系的に科目を配置し、実施します。実施にあたっては、1年を前期と後期に区分し（ Semester制）、さらに各学期に履修登録ができる単位数に上限を設けることにより、学生が各学期中に集中して学ぶことができるようにします。それぞれの開講科目については、科目の性質・目的に応じて受講者数の上限を設け、受講者数が上限を大幅に上回る場合は、複数クラス開講等の措置をとり、各クラスの受講者数を適正に保つようにします。

II 商学部・学科における教育課程の編成・実施方針

商学部の「学部専門基礎科目」には、経営学科・マーケティング学科共通の専門科目を6科目配置します。これらは学部専門教育の基礎となる科目です。「特別研究科目」（2024年度以前のカリキュラム）、「業界・企業研究科目」（2025年度以降のカリキュラム）には、現実の経営問題の理解を深めることができるよう、商品の立案・企画に携わることを目指した少人数クラスの科目や関連する業界・企業で活躍している外部講師による科目などを配置します。

【経営学科】

経営学科には、経営戦略コース、起業・事業承継コース、グローバル経営コース、会計コース、フードビジネスコースを置き、各コースの基幹科目に、共通の必修科目として「経営管理論A」を配置します。この科目を含めて、各コースの教育課程を以下のように編成・実施します。

・経営戦略コース

現代企業の経営問題を幅広い視点から理解し、問題の解決案を提案できる学生を育てることを目指して教育課程を編成します。主な進路は、製造業、商業、金融業など幅広い業種を対象とします。基幹科目には管理、組織運営を中心とした科目を配置して、経営戦略理解の基礎とします。展開科目では管理、組織運営をより深く学ぶと同時に、関連する経営諸問題を理解できる諸科目を配置します。

・起業・事業承継コース

将来の起業や事業承継（第二創業）、社内ベンチャーなどを志す学生が、新事業を創出するために必要な知識や経験を得ることが可能となる教育課程を編成します。基幹科目として、「ベンチャービジネス論」や「経営革新論」など新事業創出の基礎を修得できる科目を設けるとともに、マーケティングや会計、人事、法律など企業経営全般に関する科目、企画や調査・プレゼンテーション能力を養うことができる科目などを展開科目として配置します。

・グローバル経営コース

グローバルな経営環境に身を置くことに関心を持つ学生を育てることを目指して教育課程を編成します。主要な進路は、グローバルな環境に関わる製造業、商業、金融業など幅広い業種を対象とします。基幹科目としては、「国際経営論」、「アジアビジネス論」を中心に据え、学生の関心を高めます。展開科目は、アジアへのグローバル化を中心として、広く経済の理解から流通業を含めた幅広い視点でのグローバル経営の理解を深めることを目的とした科目を配置します。

・会計コース

企業会計の仕組みや制度を熟知し、資金面から経営問題について提案できる学生を育てることを目指して教育課程を編成します。主な進路は、企業の経理部門、金融機関、税理士などを対象とします。基幹科目としては「商業簿記I」、「財務会計論I」を中

心に据え、基礎知識の確実な習得を目指します。展開科目としては応用的な会計科目、資金管理に関する科目、経営の理解に必要な経営の基礎科目を配置します。

・フードビジネスコース（2025年度カリキュラムより開設）

実践的な学びを通じてフードビジネスに関する専門的知識を身につけ、食に関連する製造業、流通業、飲食業、観光業、農業などの領域で活躍できる学生の育成を目指して教育課程を編成します。基幹科目として「フードコーディネート論」「食品学基礎」「経営管理論A」を中心に据え、食と企業経営に関する基本的な知識の習得を目指します。展開科目としてフードビジネスの仕組みや食に関する社会の動向を理解し課題発見・問題解決につながる科目、および食生活を豊かにする提案・実践につながる科目を提供します。

学部等名 商学部 マーケティング学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.umds.ac.jp/about/purpose/>）

（概要）

- (1) 流通（人、モノ、カネ、情報、サービスの流れ）を通して社会システムを理解し、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する。
- (2) 生活者のニーズを的確につかみ、社会の多様な文化や地域特性に配慮できる、現場に強い実践的な人材を育成する。
- (3) 問題を発見し、分析し、持続可能な解決策を構想できる能力を身につけた人材を育成する。
- (4) 知識や理論を発展させ、実践的な政策やスキルに変換できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2021/>
<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2024/>
<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2025/>）

（概要）

本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力と、各学部・学科所属の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力によって構成されています。

本学は、「流通科学大学学則」に基づき、本学の各学部・学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、これらの資質・能力を身につけたものとみなし、学生の所属学科に応じた学士の学位を授与します。

本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力は、以下の5項目です。

- (1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材
- (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
- (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材
- (4) 自主・自立の精神を持った人材
- (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2021/>
<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2024/>
<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2025/>）

（概要）

I 全学に共通する教育課程の編成・実施方針

本学では、授業科目を次の通り、区分して教育課程を編成します。

全体を全学共通科目と学部専門科目とに区分し、加えて商学部マーケティング学科に教職課程科目を置きます。このうち、全学共通科目は、全学基幹科目、全学基礎科目、教養科目、キャリア科目、留学生科目によって編成され、学部専門科目は、学部共通科目、学科専門科目によって編成されます。卒業認定・学位授与を受けるためには、各科目区分に応じて最低必要単位を取得することが求められます。

各科目区分の教育課程の編成方針は以下のとおりです。本学の学生が「流通科学大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に示された資質・能力を身につけることができるよう体系的に科目を配置し、実施します。実施にあたっては、1年を前期と後期に区分し（セメスター制）、さらに各学期に履修登録ができる単位数に上限を設けることにより、学生が各学期中に集中して学ぶことができるようにします。それぞれの開講科目については、科目の性質・目的に応じて受講者数の上限を設け、受講者数が上限を大幅に上回る場合は、複数クラス開講等の措置をとり、各クラスの受講者数を適正に保つようにします。

II 商学部・学科における教育課程の編成・実施方針

商学部の「学部専門基礎科目」には、経営学科・マーケティング学科共通の専門科目を6科目配置します。これらは学部専門教育の基礎となる科目です。「特別研究科目」（2024年度以前のカリキュラム）、「業界・企業研究科目」（2025年度以降のカリキュラム）には、現実の経営問題の理解を深めることができるよう、商品の立案・企画に携わることを目指した少人数クラスの科目や関連する業界・企業で活躍している外部講師による科目などを配置します。

【マーケティング学科】

マーケティング学科には、ブランド戦略コース、流通ビジネスコースを置きます。マーケティングの基礎知識の土台として、学部専門基礎科目に「マーケティング論」と「流通システム論」を配置することに加え、各コースの基幹科目に、共通の必修科目として「消費者行動論」を配置します。また、マーケティング学科では商業教員免許状も併せて取得できるように、免許に必要な科目を配置します。これらの科目を含めて、各コースの教育課程を以下のように編成・実施します。

・ブランド戦略コース

現代ビジネスにおけるマーケティングの役割、重要性を理解した上で顧客や社会の問題に対する解決案を提案できる力を育成することを目指して教育課程を編成します。基幹科目として「消費者行動論」、「マーケティングリサーチ」を中心に据え、マーケティングの基本的な考え方を理解できるようにします。展開科目として、ブランド構築につながるようなマーケティング論や消費者行動の関連科目を配置し、ブランド戦略に対する理解を深めます。

・流通ビジネスコース

流通ビジネスの魅力や流通ビジネスを取り巻く経営環境を深く理解し、流通ビジネスの世界で活躍できる学生を育成することを目指して教育課程を編成します。基幹科目として「消費者行動論」、「リテールマネジメント概論」等を中心に据え、流通ビジネスに関する基本的な考え方を理解できるようにします。展開科目として、流通関連企業が直面する諸問題を多面的に理解できるような科目を配置します。

学部等名 経済学部 経済学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.ums.ac.jp/about/purpose/>）

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 流通（人、モノ、カネ、情報、サービスの流れ）を通して社会システムを理解し、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する。 (2) 生活者のニーズを的確につかみ、社会の多様な文化や地域特性に配慮できる、現場に強い実践的な人材を育成する。 (3) 問題を発見し、分析し、持続可能な解決策を構想できる能力を身につけた人材を育成する。 (4) 知識や理論を発展させ、実践的な政策やスキルに変換できる人材を育成する。
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2021/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2024/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2025/)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力と、各学部・学科所属の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力によって構成されています。</p> <p>本学は、「流通科学大学学則」に基づき、本学の各学部・学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、これらの資質・能力を身につけたものとみなし、学生の所属学科に応じた学士の学位を授与します。</p> <p>本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力は、以下の5項目です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材 (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材 (4) 自主・自立の精神を持った人材 (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2021/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2024/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2025/)</p>
<p>(概要)</p> <p>I 全学に共通する教育課程の編成・実施方針</p> <p>本学では、授業科目を次の通り、区分して教育課程を編成します。全体を全学共通科目と学部専門科目とに区分し、加えて商学部マーケティング学科に教職課程科目を置きます。このうち、全学共通科目は、全学基幹科目、全学基礎科目、教養科目、キャリア科目、留学生科目によって編成され、学部専門科目は、学部共通科目、学科専門科目によって編成されます。卒業認定・学位授与を受けるためには、各科目区分に応じて最低必要単位を取得することが求められます。</p> <p>各科目区分の教育課程の編成方針は以下のとおりです。本学の学生が「流通科学大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に示された資質・能力を身につけることができるよう体系的に科目を配置し、実施します。実施にあたっては、1年を前期と後期に区分し（セメスター制）、さらに各学期に履修登録ができる単位数に上限を設けることにより、学生が各学期中に集中して学ぶことができるようにします。それぞれの開講科目については、科目の性質・目的に応じて受講者数の上限を設け、受講者数が上限を大幅に上回る場合は、複数クラス開講等の措置をとり、各クラスの受講者数を適正に保つようにします。</p>

II 経済学部・学科における教育課程の編成・実施方針
 経済学部の「学部専門基礎科目」には、経済学科・経済情報学科共通の専門科目を6科目配置します。これらは学部専門教育の基礎となる科目です。「特別研究科目」（2024年度以前のカリキュラム）、「業界・企業研究科目」（2025年度以降のカリキュラム）には、専門科目で修得した知識を基に、より専門性の高い内容を少人数クラスで学ぶ科目や学外の現地研修を通して学ぶ科目、関連する業界・企業で活躍している外部講師による科目などを配置します。

【経済学科】

経済学科には、現代経済コース、地域まちづくりコースの2つのコースを置き、各コースの教育課程を次のように編成・実施します。

・現代経済コース

現代経済コースは、世の中の動きを理解して、社会の諸問題に解決策を提案できる人材を育成することを目指して教育課程を編成します。主な進路は、公務員・金融業・流通小売業などオールラウンドな業種です。職種としては経営・企画・管理部門です。基幹科目には、学生が広い視野で経済全体を見渡せるようになるよう、「マクロ経済学」などの科目を配置します。展開科目として、経済の様々な応用分野科目を配置します。

・地域まちづくりコース

経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案できる能力を身につけた人材を育成することを目指して教育課程を編成します。より良い地域社会の創出に関わる様々な業種で活躍するために、現実の課題を対象とし、計画論・政策論、個別課題に関する専門的知識、情報の収集・分析の方法論、を学ぶ科目を体系的に配置します。基幹科目には経済・地域・情報の各分野の基礎的な科目を配置し、展開科目にはそれらの知識や知恵を広く、深くする科目を配置し、実施します。

学部等名 経済学部 経済情報学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.umds.ac.jp/about/purpose/>）

（概要）

- (1) 流通（人、モノ、カネ、情報、サービスの流れ）を通して社会システムを理解し、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する。
- (2) 生活者のニーズを的確につかみ、社会の多様な文化や地域特性に配慮できる、現場に強い実践的な人材を育成する。
- (3) 問題を発見し、分析し、持続可能な解決策を構想できる能力を身につけた人材を育成する。
- (4) 知識や理論を発展させ、実践的な政策やスキルに変換できる人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2021/>

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2024/>

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2025/>）

（概要）

本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力と、各学部・学科所属の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力によって構成されています。

本学は、「流通科学大学学則」に基づき、本学の各学部・学科に所定の期間在学し所定

の単位を取得したことをもって、これらの資質・能力を身につけたものとみなし、学生の所属学科に応じた学士の学位を授与します。

本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力は、以下の5項目です。

- (1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材
- (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
- (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材
- (4) 自主・自立の精神を持った人材
- (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2021>)

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2024/>

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2025/>)

(概要)

I 全学に共通する教育課程の編成・実施方針

本学では、授業科目を次の通り、区分して教育課程を編成します。

全体を全学共通科目と学部専門科目とに区分し、加えて商学部マーケティング学科に教職課程科目を置きます。このうち、全学共通科目は、全学基幹科目、全学基礎科目、教養科目、キャリア科目、留学生科目によって編成され、学部専門科目は、学部共通科目、学科専門科目によって編成されます。卒業認定・学位授与を受けるためには、各科目区分に応じて最低必要単位を取得することが求められます。

各科目区分の教育課程の編成方針は以下のとおりです。本学の学生が「流通科学大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に示された資質・能力を身につけることができるよう体系的に科目を配置し、実施します。実施にあたっては、1年を前期と後期に区分し（ Semester制）、さらに各学期に履修登録ができる単位数に上限を設けることにより、学生が各学期中に集中して学ぶことができるようにします。それぞれの開講科目については、科目の性質・目的に応じて受講者数の上限を設け、受講者数が上限を大幅に上回る場合は、複数クラス開講等の措置をとり、各クラスの受講者数を適正に保つようにします。

II 経済学部・学科における教育課程の編成・実施方針

経済学部の「学部専門基礎科目」には、経済学科・経済情報学科共通の専門科目を6科目配置します。これらは学部専門教育の基礎となる科目です。「特別研究科目」（2024年度以前のカリキュラム）、「業界・企業研究科目」（2025年度以降のカリキュラム）には、専門科目で修得した知識を基に、より専門性の高い内容を少人数クラスで学ぶ科目や学外の現地研修を通して学ぶ科目、関連する業界・企業で活躍している外部講師による科目などを配置します。

【経済情報学科】

経済情報学科には、データサイエンスコース、情報システムコースの2つのコースを置き、各コースの教育課程を次のように編成・実施します。

・データサイエンスコース（2025年度カリキュラムより開設）

経済分析と情報処理の能力を活かして仕事をすすめることができるビジネスパーソンを育成することを目指して、基礎となり中心的役割を果たす基幹科目として、経済学科目群、情報基礎科目群、および、データに基づく経済分析力を学べる経済情報科目群を配置します。また、展開科目として、各分野の発展的・個別的科目を配置します。これらの科目を、各年次に段階的に配当し、科目選択の自由の一部を学生に委ねるこ

<p>とによって、コースの学びの範疇の中で、各学生が学びたいことを学べるようカリキュラムを編成・実施します。</p> <p>・情報システムコース</p> <p>情報関連企業、企業の情報分析部門やシステムエンジニア等、経済知識と情報処理能力を合せ持つビジネスパーソンを育成することを目指して、その基礎となりまた中心的役割を果たす基幹科目として経済学科目、経済情報分析科目、情報基礎科目を置き、展開科目として、各分野の発展的・個別的科目を配置します。これらの科目を、各年次に段階的に配当し、科目選択の自由の一部を学生に委ねることによって、コースの学びの範疇の中で、各学生が学びたいことを学べるようカリキュラムを編成・実施します。</p>
<p>学部等名 人間社会学部 心理社会学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.umds.ac.jp/about/purpose/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 流通（人、モノ、カネ、情報、サービスの流れ）を通して社会システムを理解し、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する。 (2) 生活者のニーズを的確につかみ、社会の多様な文化や地域特性に配慮できる、現場に強い実践的な人材を育成する。 (3) 問題を発見し、分析し、持続可能な解決策を構想できる能力を身につけた人材を育成する。 (4) 知識や理論を発展させ、実践的な政策やスキルに変換できる人材を育成する。
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2021/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2024/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2025/）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力と、各学部・学科所属の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力によって構成されています。</p> <p>本学は、「流通科学大学学則」に基づき、本学の各学部・学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、これらの資質・能力を身につけたものとみなし、学生の所属学科に応じた学士の学位を授与します。</p> <p>本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力は、以下の5項目です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材 (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材 (4) 自主・自立の精神を持った人材 (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2021/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2024/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2025/）</p>

(概要)

I 全学に共通する教育課程の編成・実施方針

本学では、授業科目を次の通り、区分して教育課程を編成します。

全体を全学共通科目と学部専門科目とに区分し、加えて商学部マーケティング学科に教職課程科目を置きます。このうち、全学共通科目は、全学基幹科目、全学基礎科目、教養科目、キャリア科目、留学生科目によって編成され、学部専門科目は、学部共通科目、学科専門科目によって編成されます。卒業認定・学位授与を受けるためには、各科目区分に応じて最低必要単位を取得することが求められます。

各科目区分の教育課程の編成方針は以下のとおりです。本学の学生が「流通科学大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に示された資質・能力を身につけることができるよう体系的に科目を配置し、実施します。実施にあたっては、1年を前期と後期に区分し（セメスター制）、さらに各学期に履修登録ができる単位数に上限を設けることにより、学生が各学期中に集中して学ぶことができるようにします。それぞれの開講科目については、科目の性質・目的に応じて受講者数の上限を設け、受講者数が上限を大幅に上回る場合は、複数クラス開講等の措置をとり、各クラスの受講者数を適正に保つようにします。

II 人間社会学部・学科における教育課程の編成・実施方針

人間社会学部の「学部専門基礎科目」には、心理社会学科、観光学科、人間健康学科共通の専門科目を7科目配置します。これらは、「社会学基礎」をはじめとして、学部専門教育の基礎となる科目です。「特別研究科目」（2024年度以前のカリキュラム）、「業界・企業研究科目」（2025年度以降のカリキュラム）には、学内外での演習・実践、学外の各分野の専門家・経営者の講義などを通じて、専門科目で学んだ内容を、定着・発展させ、実践的、創造的能力を修得するための科目を配置します。

【心理社会学科】

心理社会学科には、社会文化コース、心理コースの2つのコースを置き、各コースの教育課程を次のように編成・実施します。

・社会文化コース

社会の仕組みや働き、日常の生活文化を学ぶために、社会学を中心として現実社会を取り扱う多様な科目を置きます。加えて、統計調査やフィールドワークなどの実証的な研究方法に関する科目、学問的な知識を、現実社会やビジネスの実践に役立たせるための実践的、実務的な事業論科目、ビジネス関連科目を配置します。これらの科目を、理論を学ぶことにとどまらず、事例研究、ケーススタディー等を通じて実証的に学ぶことができるようにします。

・心理コース

心理学の基礎的能力と応用的能力を育成するために、基幹科目と展開科目に、心理学の基礎的科目に加えて、コミュニケーション、ビジネス、援助場面の人々の心理と行動を学ぶ科目を配置します。これらの科目については、講義科目に加えて、それぞれに対応する演習科目を配置します。

学部等名 人間社会学部 観光学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.umds.ac.jp/about/purpose/>）

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 流通（人、モノ、カネ、情報、サービスの流れ）を通して社会システムを理解し、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する。 (2) 生活者のニーズを的確につかみ、社会の多様な文化や地域特性に配慮できる、現場に強い実践的な人材を育成する。 (3) 問題を発見し、分析し、持続可能な解決策を構想できる能力を身につけた人材を育成する。 (4) 知識や理論を発展させ、実践的な政策やスキルに変換できる人材を育成する。
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2021/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2024/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2025/)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力と、各学部・学科所属の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力によって構成されています。</p> <p>本学は、「流通科学大学学則」に基づき、本学の各学部・学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、これらの資質・能力を身につけたものとみなし、学生の所属学科に応じた学士の学位を授与します。</p> <p>本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力は、以下の5項目です。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材 (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材 (4) 自主・自立の精神を持った人材 (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2021/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2024/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2025/)</p>
<p>(概要)</p> <p>I 全学に共通する教育課程の編成・実施方針</p> <p>本学では、授業科目を次の通り、区分して教育課程を編成します。全体を全学共通科目と学部専門科目とに区分し、加えて商学部マーケティング学科に教職課程科目を置きます。このうち、全学共通科目は、全学基幹科目、全学基礎科目、教養科目、キャリア科目、留学生科目によって編成され、学部専門科目は、学部共通科目、学科専門科目によって編成されます。卒業認定・学位授与を受けるためには、各科目区分に応じて最低必要単位を取得することが求められます。</p> <p>各科目区分の教育課程の編成方針は以下のとおりです。本学の学生が「流通科学大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に示された資質・能力を身につけることができるよう体系的に科目を配置し、実施します。実施にあたっては、1年を前期と後期に区分し（セメスター制）、さらに各学期に履修登録ができる単位数に上限を設けることにより、学生が各学期中に集中して学ぶことができるようにします。それぞれの開講科目については、科目の性質・目的に応じて受講者数の上限を設け、受講者数が上限を大幅に上回る場合は、複数クラス開講等の措置をとり、各クラスの受講者数を適正に保つようにします。</p>

<p>II 人間社会学部・学科における教育課程の編成・実施方針</p> <p>人間社会学部の「学部専門基礎科目」には、心理社会学科、観光学科、人間健康学科共通の専門科目を7科目配置します。これらは、「社会学基礎」をはじめとして、学部専門教育の基礎となる科目です。「特別研究科目」（2024年度以前のカリキュラム）、「業界・企業研究科目」（2025年度以降のカリキュラム）には、学内外での演習・実践、学外の各分野の専門家・経営者の講義などを通じて、専門科目で学んだ内容を、定着・発展させ、実践的、創造的能力を修得するための科目を配置します。</p> <p>【観光学科】</p> <p>観光学科には、観光事業コース、ホテル・ブライダルコースの2つのコースを置き、各コースの教育課程を次のように編成・実施します。</p> <p>・観光事業コース</p> <p>観光事業コースでは、旅行業、運輸業、観光施設業、自治体などの観光部門などの観光事業に携わる学生を育成することを目指して教育課程を編成し、観光やホスピタリティなどの原理、知識その応用を学ぶ科目、加えて、観光事業を担う個別業種の事業経営に関して学びを深めるための科目、観光に関連する産業や社会環境について学ぶ科目を配置します。</p> <p>・ホテル・ブライダルコース</p> <p>ホテル・ブライダルコースでは、ホテル・旅館などの宿泊業やブライダル事業などの事業に携わる学生を育成することを目指して教育課程を編成し、観光やホスピタリティなどの原理、知識その応用を学ぶ科目、加えて、ホテル・ブライダル事業の経営に関して学びを深めるための科目、人々のライフステージに基づいた市場の分析力を修得するための科目などを配置します。</p>
<p>学部等名 人間社会学部 人間健康学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.umds.ac.jp/about/purpose/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 流通（人、モノ、カネ、情報、サービスの流れ）を通して社会システムを理解し、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する。 (2) 生活者のニーズを的確につかみ、社会の多様な文化や地域特性に配慮できる、現場に強い実践的な人材を育成する。 (3) 問題を発見し、分析し、持続可能な解決策を構想できる能力を身につけた人材を育成する。 (4) 知識や理論を発展させ、実践的な政策やスキルに変換できる人材を育成する。
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2021/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2024/ https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-diploma-policy2025/）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力と、各学部・学科所属の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力によって構成されています。</p> <p>本学は、「流通科学大学学則」に基づき、本学の各学部・学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、これらの資質・能力を身につけたものとみなし、学生の所属学科に応じた学士の学位を授与します。</p>

本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力は、以下の5項目です。

- (1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材
- (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
- (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材
- (4) 自主・自立の精神を持った人材
- (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2021/>

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2024/>

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-curriculum-policy2025/>)

（概要）

I 全学に共通する教育課程の編成・実施方針

本学では、授業科目を次の通り、区分して教育課程を編成します。

全体を全学共通科目と学部専門科目とに区分し、加えて商学部マーケティング学科に教職課程科目を置きます。このうち、全学共通科目は、全学基幹科目、全学基礎科目、教養科目、キャリア科目、留学生科目によって編成され、学部専門科目は、学部共通科目、学科専門科目によって編成されます。卒業認定・学位授与を受けるためには、各科目区分に応じて最低必要単位を取得することが求められます。

各科目区分の教育課程の編成方針は以下のとおりです。本学の学生が「流通科学大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に示された資質・能力を身につけることができるよう体系的に科目を配置し、実施します。実施にあたっては、1年を前期と後期に区分し（セメスター制）、さらに各学期に履修登録ができる単位数に上限を設けることにより、学生が各学期中に集中して学ぶことができるようにします。それぞれの開講科目については、科目の性質・目的に応じて受講者数の上限を設け、受講者数が上限を大幅に上回る場合は、複数クラス開講等の措置をとり、各クラスの受講者数を適正に保つようにします。

II 人間社会学部・学科における教育課程の編成・実施方針

人間社会学部の「学部専門基礎科目」には、心理社会学科、観光学科、人間健康学科共通の専門科目を7科目配置します。これらは、「社会学基礎」をはじめとして、学部専門教育の基礎となる科目です。「特別研究科目」（2024年度以前のカリキュラム）、「業界・企業研究科目」（2025年度以降のカリキュラム）には、学内外での演習・実践、学外の各分野の専門家・経営者の講義などを通じて、専門科目で学んだ内容を、定着・発展させ、実践的、創造的能力を修得するための科目を配置します。

【人間健康学科】

人間健康学科には、スポーツマネジメントコース、スポーツ健康コースの2つのコースを置き、各コースの教育課程を次のように編成・実施します。

・スポーツマネジメントコース

スポーツマネジメントコースでは、健康・スポーツ・生活関連企業への就職を目指し、スポーツマンシップを持ったビジネスパーソンを育成します。基幹科目には人々の健康を幅広い観点からとらえることができ、スポーツとビジネスとの関わりを学修することで、将来のキャリア形成につながる知識・技能を身につけるための科目を配置します。展開科目には、社会における「ヒト・モノ・カネ・情報」に関する知識をスポーツイベントやスポーツビジネスの視点を通して学修できる科目を配置します。

・スポーツ健康コース

スポーツ健康コースでは、スポーツインストラクターや健康増進関連施設への就職を目指し、スポーツや身体を動かす楽しさを伝え、実践的に指導することができる人材を育成します。基幹科目には人々の健康を幅広い観点からとらえることができ、スポーツとビジネスとの関わりを学修することで、将来のキャリア形成につながる知識・技能を身につけるための科目を配置します。展開科目には、科学的根拠に基づくトレーニングや健康づくりに関する知識を身につけ、人々の健康づくりと競技力向上に必要な技能を学修できる科目を配置します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：HP 公開

<https://www.umds.ac.jp/academics/university-policy/u-admission-policy/>)

(概要)

【商学部マーケティング学科】

商学部マーケティング学科では、企業環境をマーケティングの視点で捉え、現状を改変する努力を持続することができる学生を育てます。

このために、商学部マーケティング学科では、全学に共通する入学者の受入れ方針において本学への入学者に求める意欲と資質・能力に加えて、次のような意欲と資質・能力をもった学生を求めます。このような学生像に適合する素養をもった多様な入学者を受け入れるため、入学者を選抜するにあたっては、商学部マーケティング学科への入学希望者それぞれの資質・能力や意欲を、評価の比重の異なる多様な入学制度を通じて評価します。

1. マーケティング学科での専門科目の知識・理解力を修得するために十分な基礎的能力を有する
2. 各種スキルと論理的思考力に支えられたマーケティング課題の発見、・説明・解決力を身につけようという意欲を有する
3. 個人のみならず様々な人々と協働して学びながら、ビジネスパーソンに必要な社会的協調力、自発的遂行力、倫理的責任力を身につけようとする意欲を有する

【商学部経営学科】

商学部経営学科では、企業マネジメントに関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につけることで、社会に貢献できる学生を育てます。

このために、商学部経営学科では、全学に共通する入学者の受入れ方針において本学への入学者に求める意欲と資質・能力に加えて、次のような意欲と資質・能力をもった学生を求めます。このような学生像に適合する素養をもった多様な入学者を受け入れるため、入学者を選抜するにあたっては、商学部経営学科への入学希望者それぞれの資質・能力や意欲を、評価の比重の異なる多様な入学制度を通じて評価します。

1. 知識の習得に努めるとともに、それを実践に活かそうとする意欲を有する
2. リーダーとなって目標の実現に向け人々を牽引できる素質を有する
3. 豊かな人間性と社会的協調性を有する

【経済学部経済学科】

経済学部経済学科では、経済やまちづくりの知恵を融合し企業や地域社会で活躍できる学生を育てます。

このために、経済学部経済学科では、全学に共通する入学者の受入れ方針において本学への入学者に求める意欲と資質・能力に加えて、次のような意欲と資質・能力をもった学生を求めます。このような学生像に適合する素養をもった多様な入学者を受け入れるため、入学者を選抜するにあたっては、経済学部経済学科への入学希望者それぞれの資質・能力や意欲を、評価の比重の異なる多様な入学制度を通じて評価します。

1. 将来は、経済学や暮らしの基盤づくりに関する知識や知恵を生かして、ビジネスパーソンとして様々な分野で活躍したいという意欲をもっている
2. 日本や世界の経済、地域社会の在り方などに関心や疑問を持ち、それらの課題解決に向

けて主体的に学び、実践できる資質をもっている

3. 日本や世界、地域社会の課題解決に向けて、大学の内外において多様な人々と積極的にコミュニケーションをとり、協働して学ぶことができる資質をもっている

【経済学部経済情報学科】

経済学部経済情報学科では、経済情報を的確に分析・活用できる学生を育てます。

このために、経済学部経済情報学科では、全学に共通する入学者の受入れ方針において本学への入学者に求める意欲と資質・能力に加えて、次のような意欲と資質・能力をもった学生を求めます。このような学生像に適合する素養をもった多様な入学者を受け入れるため、入学者を選抜するにあたっては、経済学部経済情報学科への入学希望者それぞれ1の資質・能力や意欲を、評価の比重の異なる多様な入学制度を通じて評価します。

1. 将来は、経済学や情報・通信技術の知識や知恵を生かして、ビジネスパーソンとして様々な分野で活躍したいという意欲をもっている
2. 情報化社会に関心や疑問を持ち、その課題解決に向けて主体的に学び、実践できる資質をもっている
3. 情報化社会の課題解決に向けて、大学の内外において多様な人々と積極的にコミュニケーションをとり、協働して学ぶことができる資質をもっている

【人間社会学部心理社会学科】

人間社会学部心理社会学科では、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる学生を育てます。

このために、人間社会学部心理社会学科では、全学に共通する入学者の受入れ方針において本学への入学者に求める意欲と資質・能力に加えて、次のような意欲と資質・能力をもった学生を求めます。このような学生像に適合する素養をもった多様な入学者を受け入れるため、入学者を選抜するにあたっては、人間社会学部心理社会学科への入学希望者それぞれの資質・能力や意欲を、評価の比重の異なる多様な入学制度を通じて評価します。

1. 社会や文化、人びとの意識、心理や行動に強い興味関心がある。
2. 高校までの基礎的な学問的知識を有しているとともに、経験から得られる知識を活かし、さまざまな人びとの立場になって考え、社会の問題を解決しようという意欲がある。
3. 心理社会学科で学ぶ知識や技術を活かして社会で活躍する意欲がある。

【人間社会学部観光学科】

人間社会学部観光学科では、観光ビジネスのスキルを備え、高い人間力を有する学生を育てます。

このために、人間社会学部観光学科では、全学に共通する入学者の受入れ方針において本学への入学者に求める意欲と資質・能力に加えて、次のような意欲と資質・能力をもった学生を求めます。このような学生像に適合する素養をもった多様な入学者を受け入れるため、入学者を選抜するにあたっては、人間社会学部観光学科への入学希望者それぞれの資質・能力や意欲を、評価の比重の異なる多様な入学制度を通じて評価します。

1. さまざまな社会や文化・風土のもとで生きる人々の多様性を受容し、共感をもって交流することができる。
2. 自ら課題を発見し、考え、行動することを通じて成長していこうとする意欲がある。
3. 観光学科で学ぶ知識や技術を活かしてホスピタリティ産業で活躍する意欲がある。

【人間社会学部人間健康学科】

人間社会学部人間健康学科では、健康的で豊かな社会の実現に貢献できる学生を育てます。

このために、人間社会学部人間健康学科では、全学に共通する入学者の受入れ方針において本学への入学者に求める意欲と資質・能力に加えて、次のような意欲と資質・能力をも

った学生を求めます。このような学生像に適合する素養をもった多様な入学者を受け入れるため、入学者を選抜するにあたっては、人間社会学部人間健康学科への入学希望者それぞれの資質・能力や意欲を、評価の比重の異なる多様な入学制度を通じて評価します。

1. 人の健康やスポーツに対する関心を持ち、それを深く理解しようとする意欲がある。
2. 自分の知識や意見を人前で分かりやすく伝える能力を高めたいと考えている。
3. 他の人たちと協力しながら、社会貢献活動や地域の活性化に取り組むことができる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.umds.ac.jp/about/organization/chart>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
商学部	—	18人	15人	9人	0人	0人	42人
経済学部	—	12人	9人	3人	0人	0人	24人
人間社会学部	—	17人	14人	5人	0人	0人	36人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
—			90人				90人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.umds.ac.jp/academics/profile/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
以下の取組を実施							
・全学的一斉授業公開制度（オープンクラスウィーク）							
・授業改善アンケート							
・F D研修会							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
商学部	370人	334人	90.2%	1480人	1585人	107%	人	人
経済学部	280人	235人	83.9%	1120人	907人	80.9%	人	人
人間社会学部	250人	275人	110%	1000人	1005人	100.5%	人	人
合計	900人	844人	93.7%	3600人	3497人	97.1%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
商学部	417人 (100%)	17人 (4.1%)	312人 (74.8%)	88人 (21.1%)
経済学部	202人 (100%)	4人 (2.0%)	160人 (79.2%)	38人 (18.8%)
人間社会学部	264人 (100%)	6人 (2.3%)	214人 (81.0%)	44人 (16.7%)
合計	883人 (100%)	27人 (3.1%)	686人 (77.7%)	170人 (19.2%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進学先…流通科学大学大学院、神戸大学大学院、慶応義塾大学大学院など 就職先…シャープ(株)、富士通(株)、(株)ニトリ、西宮市役所、赤穂市役所など (備考)
--

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>前年度12月頃の教授会・教員会において、シラバス作成にあたっての入力項目と必要事項、ならびに作成スケジュールについて告知を行う。非常勤講師については、別途科目担当の依頼と同時にシラバスの作成についても案内する。</p> <p>すべての学部において、同様に取り組んでいる。</p> <p><シラバス項目></p> <p>【主題と概要】、【到達目標】、【提出課題】、【課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック】、【評価の基準】、【履修にあたっての注意・助言他】、【教科書】、【プリント資料及び参考文献】、【授業計画】、【授業形態(アクティブラーニング)】、【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】、【双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述】、【実務経験の有無及び活用】、【備考】、【その他】</p> <p><シラバス作成スケジュール></p> <p>前年度2月初旬 ポータルサイトにて教員入力開始(専任・非常勤)</p> <p>2月中旬 教員入力締切(専任・非常勤)</p> <p>2月下旬 第3者チェック(第1期)および教員シラバス修正</p> <p>3月上旬 第3者チェック(第2期)</p> <p>3月中旬～当年度末 ポータルサイトにてシラバス公開</p> <p>6月頃 大学ホームページにて公開</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力と、各学部・学科所属の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力によって構成されています。</p> <p>本学は、「流通科学大学学則」に基づき、本学の各学部・学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、これらの資質・能力を身につけたものとみなし、学生の所属学科に応じた学士の学位を授与します。</p> <p>本学の学生が卒業時に共通に身につけておくべき資質・能力は、以下の5項目です。</p> <p>(1) 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材 (2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 (3) 創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材 (4) 自主・自立の精神を持った人材 (5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
商学部	経営学科	124 単位	有・無	単位
	マーケティング学科	124 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	単位
	経済情報学科	124 単位	有・無	単位
人間社会学部	心理社会学科	124 単位	有・無	単位
	観光学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.umds.ac.jp/about/data/building>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

2年生以上(2024年度入学以前)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	施設設備 維持拡充 費	教育充実 費	教育後援 会入会金 (初年度 のみ)	教育後援 会費	同窓会費 (4年次 のみ)	合計
商	マーケティング	770,000 円	300,000 円	100,000 円	100,000 円	10,000円	42,000円	35,000円	1,357,000 円
	経営								
経済	経済								
	経済情報								
人間社会	心理社会								
	観光								
	人間健康								

1年生(2025年度入学以降)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	施設設備 維持拡充 費	教育充実 費	教育後援 会入会金 (初年度 のみ)	教育後援 会費	同窓会費 (4年次 のみ)	合計
商	マーケティング	800,000 円	200,000 円	100,000 円	100,000 円	10,000円	42,000円	35,000円	1,287,000 円
	経営								
経済	経済								
	経済情報								
人間社会	心理社会								
	観光								
	人間健康								

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 入学時に新入生オリエンテーションを実施、1年次後期開始時および2～4年生進級時にもオリエンテーションを実施。その他、学修相談に随時応じるとともに、未履修者への連絡、成績不振者に対しての定期的な面談を実施。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) ガイダンスを計7回実施。その他、進路個人面談、筆記対策講座、ゼミ訪問、企業見学ツアー、学内企業説明会、就職対策宿泊セミナー等を実施。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 保健室では、健康診断・病気やけがの応急手当・健康相談を受け付けている。学生支援室では、臨床心理士・公認心理師の資格を有する心理カウンセラーが常駐し、心の相談を受け付けている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページ「教員プロフィール」に掲載及び「教育研究活動報告書の作成」

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「—」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F128310108927
学校名 (〇〇大学 等)	流通科学大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 中内学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		433人 (0) 人	428人 (0) 人	—
内 訳	第Ⅰ区分	257人	234人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	89人	95人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	56人	53人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	—	38人	
	区分外 (多子世帯)	22人	—	
家計急変による 支援対象者 (年間)				—
合計 (年間)				—
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	12人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	0人	0人
計	24人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	17人
3月以上の停学	0人
年間計	17人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	11人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	—	0人	0人
GPA等が下位4分の1	37人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	38人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。